

第34回

うつのみやこども賞だより

平成29年度 5回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『明日のひこうき雲』

八束澄子／著（ポプラ社）



～読んだ本の感想より～

- 複雑な家庭の中でも、強く生きていく遊を応えんしたくなった。
- 中学で出会った人それぞれに、きびしい家庭の中、友情を深めていくところがおもしろかった。
- 実際ありうる話なので私は今、幸せだなと思いました。将来そういう事情を持った子が周りにいたら、キンちゃんみたいに助けてあげたいです。
- 遊の笑い方はとてもうけました。また、キンちゃんに恋してる遊を応えんしたくなりました。
- 遊のかえる笑いがかわいいと思ったし、金ちゃんを好きになる展開になんとか共感できた。
- 私では、たえきれないような家族の問題を、たえている遊の姿に感動した。
- 遊が家族のきずなをとりもどすところに感動しました。

『ラブリィ！』

吉田桃子／著（講談社）

- 人は見た目ではんだんしてはいけないという気持ちは尊敬した。
- えのきくんにも、たろうくんも二人とも、つらいことがあって、それをのりこえて生きていて、とてもよかったです。
- 涼子が最後に自分から立ち直り、「見た目ではない」ということを拓郎に伝えられて良かったと思う。
- 勇気をもらえる本で、つらいことがあっても、のりこえていくところに感動しました。
- 私がそこまで考えないようなことを、たろうは考えていてすごいなあ、なるほど、と思うことも多かった。

『ジャンケンの神さま』

くすのきしげのり／著（小学館）

- 物語の展開がおもしろく、神さまではなく愛子がアンドレとジャンケンをするところがおもしろかった。
- アイコのもっている能力や、アンドレとジャンケンの神さまの関係が面白かった。
- ジャンケンに「見切り」や「無想」があつたりと、とてもおもしろかった。
- ジャンケンのことをけんきゅうしてゆけばジャンケンでかてるようになるのがわかった。
- じゃんけんのこつが物語の中に、しっかりとわかりやすく書いてあっておもしろいと思いました。
- ジャンケンの神さまは、パーで色々なものを切ったり、チョキでさしたり、グーで木をおったりして、すごいなおもいました。

『夏空に、かんだーた』

和泉智／著（ポプラ社）

- パセリンが、かんだーたの人達ときずなが深まっていく所が感動しました。
- あらためて、仲間の大切さなどを知れるような本で、おもしろかったです。
- うまく歌をうたえてよかったと思う。おじさんも元気になって、かなたも、歌をうたえてよかった。
- 自分達の問題に直面しても歌い続ける姿勢がすごいと思いました。
- 最初はおじさんが変な人だなと思っていたが、最後はすごい良かったと思った。

平成29年10月1日